

入試もいよいよ終盤を迎えます。例年以上に体調管理に気を付けなければならない昨今ではありますが、春はもうすぐそこまで来ています。

現在会員登録数 3,305 人さま。次号は 3 月 21 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

●「第36回 日産 童話と絵本のグランプリ」表彰式・特別講演会 参加募集
「日産 童話と絵本のグランプリ」（1984年に創設されたアマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテスト）の表彰式および特別講演会を今回初めて一般公開します。

日 時：令和2年3月7日（土） 午後1時40分～3時40分

会 場：大阪府立中央図書館 ライティホール （東大阪市荒本北）

内 容：

◎表彰式

◎特別講演「「子どもの本」ってなんだろう？

－童話・絵本のつくり手を目指すみなさんへ－

講 師：富安陽子さん（童話作家、グランプリ審査員）

定 員：100名（申込先着順） 対 象：中学生以上 料 金：無料

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

協 賛：日産自動車株式会社

お申し込み、詳細は ↓

[http://www.iiclo.or.jp/07_com-](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#36shikikoenkaisanka)

[con/02_nissan/index.html#36shikikoenkaisanka](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#36shikikoenkaisanka)

●「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品原画展 開催中

平成30年度に開催した「第35回 日産 童話と絵本のグランプリ」の絵本の部入賞作品の原画展を開催しています。

場 所：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー

期 間：開催中～3月8日（日） 施設の開館日時にご覧いただけます。

※ 3月10日（火）～22日（日）は、第36回の入賞作品を展示します。

詳細は ↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#36tenji

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『明日をさがす旅 故郷を追われた子どもたち』 アラン・グラッツ/作 さくまゆみこ/訳 福音館書店 2019年11月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：1938年ドイツ、ベルリンからナチスの台頭のために逃げることになったユダヤ人のヨーゼフ、1994年キューバからボートでアメリカに逃亡しようとするイサベル、2015年シリアのアレッポからドイツを目指して逃げようとするマフムードの12歳の3人と彼らの家族の様子を描いた作品。3人とも何度も命の危険にさらされながら、海や陸を旅する。

T：時代も国籍も宗教も違う3人の子どもたちが生まれた国を出て行き新しい場所を探すという3つの物語が同時進行で語られていく手法がユニークな作品でした。

Y：章の終わりが危機一髪というところで終わって、恐怖を感じると同時に、「あーどうなるんだろう」と心配になる。次の2つの章は、他の主人公の物語になっていますが、その間恐怖と心配している気持が持続していて、主人公たちが危機の連続の中に生きているということが強く感じられました。

T：私は、一人の主人公の物語が続くとあまりにつらすぎるので、章の切り替わりで何とか一休みできるようにも思いました。

そして、読んでいるうちに、3つの物語の共通点が見えてくると同時に、3つがいかにリンクするのかを考えていくことになります。

Y：イサベルのおじいちゃんの名がヨーゼフの物語の中で出てきた時にに関わり気づく読者もいると思います。全てが明らかになるのは結末に近いのですが、リアルかつ満足感のある終わり方でした。

T：日本の多くの子どもにとって、難民の問題は身近とは言えませんが、主人公たちの死に直面した冒険を読みながら、歴史や戦争、人種差別や宗教の違いや難民についても知ったり考えたりすることができるようになっていくと思います。

Y：極限状態にあるという意味では、多くの日本の子どもたちとはかい離していますが、親を客観的に見ざるを得ないような状況や、「大人とは何か」ということを模索する様子には共通点があると思いました。

T：そういう場面は数多くありましたね。中でも特に、ヨーゼフが心を病んだ父をひっぱたき、そのことを後から後悔する場面は強く心に残りました。

Y：原題はRefugee（難民）で、実際に起きた事件や人物を織り交ぜながら書かれています。

T：翻訳は、作中の「明日」というキーワードを使って読者に主人公たちの「明日」を想像させるタイトルになっていると思いました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第54回「ざしき童子のはなし」

大人の前に現れた土地の精霊

ざしき童子は、東北地方に伝承される精霊的存在で、旧家の座敷や蔵に棲むと言われる幼童です。存在が、家の盛衰に関わることから守護神としても知られ、柳田國男『遠野物語』をはじめとして、東北の民話・伝説に登場してきました。さまざまな呼び名があるなか、「ザシキワラシ」が有名ですが、賢治は「ザシキポッコ」と読ませています。

物語はくぼくらの方の、ざしき童子のはなしです。と書き起こされ、短い4つの話が収められています。

大人たちがみんな働きに出て誰もいない昼間、庭で子どもが二人遊んでいると、大きな家のどこかの座敷でくざわっざわっと箒の音がします。でも、どの座敷にも誰もいなかった、というのが第1話。10人の子どもたちが手をつなぎ、囃子ことばを唱えながら座敷でぐるぐる回って遊んでいると、いつの間にか11人になっている（でもくひとりも知らない顔がなく、ひとりもおんなじ顔がな）という第2話。第3話では、仲間はずれにされる病気の子とざしき童子を重ね合わせ、最後の第4話ではく紋付を着て刀をさし、袴をはいたきれいな子供）のざしき童子が眼に見える形で登場します。

ところで、上記4つの物語の配列について、くただ並んでいるだけではないとしたのは天沢退二郎です（新潮文庫『注文の多い料理店』解説）。く「不可視」の姿をしたざしき童子が、夢かどうか不鮮明であるとしながらも、最終的にその姿をくつきりと現していくプロセスに着眼しました。加えて、渡し守という「大人によって」語られた最終話でようやくざしき童子が現出する点は、これまでも指摘されてきていますが（中野隆之）、子どもには明瞭に姿を見せなかった童子が、大人の前のみ登場するのはなぜなのでしょう。

柳田の『妖怪談義』には、遠野の小学校に童子が現れ、小さな子どもには姿が見えたのに、他の大きな子どもや大人には見えなかったという話があります。「ひかりの素足」や「風の又三郎」に通底するものであり、小さな子は精霊・神を感じ、それ以外は確認できないという構図は賢治童話にはしばしば見られるものです。本作がこうした構図を踏襲せず、敢えて大人にのみ姿を見せる精霊を描いたのは、くぼくらの方の、ざしき童子と前置きしているように、土地に伝承される物語の枠組みを重視したからか、あるいは他に賢治の精霊に関する考えがあったのか、さらなる検討が必要と思われます。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『注文の多い料理店』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 8

ブタヤマさんが
「じゃあ、クジラが きみをたべたら どうなる？」と ききました。
キャベツくんが
「こうなる！」と いいました。
「ブキャ！」
(『キャベツくん』長新太/作 文研出版 1980年9月)

1月19日は阪神淡路大震災から25年を迎え、3月11日は東日本大震災から9年になります。1995年当時、私は財団の有志とともに、体育館などの避難所で生活している子どもたちに絵本やおはなしを届けるボランティア活動を行っていました。

読んだ本の中で、最も記憶に残っているのが『キャベツくん』です。西宮市立中央体育館では、段ボールの仕切りがひしめき合い、中に入るとプライバシーのない中で何とかプライバシーを保とうという緊張した雰囲気は漂っていました。子どもたちは、大声を上げることができず、狭い空間で家族と過ごしています。

私たちは人々が暮らしている中を「おはなし会をはじめます」「絵本を読みます」と呼び込みをして、目の合った子どもを誘いながら、2階の観客席に集まりました。

子どもたちは時間をもてあましていたので、どんなおはなしや絵本も熱心に聞いてくれましたが、『キャベツくん』の「ブキャ！」を読んだとたんに、体育館中に響くような、はじける笑い声が聞こえた時のことは鮮明に覚えています。お互いの迷惑になるからと、笑い声すらあげられない状況の中で、子どもたちはこの時とばかり、笑ったのです。そして、「じゃあ、ヘビが きみをたべたら どうなるんだ?」「ノミが きみをたべたら、どうなるの?」と繰り返すごとに、次の展開を待っているようになり、その次には、読む前から笑い始めて、私も思わず笑ってしまいました。『キャベツくん』の持つ絵と言葉の力に改めて気づかされた時間でした。

日常と異なる色と風景の中に奇想天外な出来事が繰返し起こる。その不思議な出来事は、キャベツくんを食べたいブタヤマさんと、ブタヤマさんに食べられたくないキャベツくんの会話によって起こる。食べる側、つまり強いはずのブタヤマさんが、キャベツくんの発言と空に浮かぶイメージにおどろかされて「ブキャ！」とぶっ倒れる。そして、そんなブタヤマさんをキャベツくんはかわいそうに思う。

厳しい毎日の中で、非日常を求め、空想を大切に、大人をはじめとする権威のあるものを「ブキャ！」と言わせて同情するという『キャベツくん』の世界はまさに、避難所の子どもたちが求めているものだったのでした。(Y)

《4》 行って来ました！

美術館「えき」K Y O T Oで、3月2日まで開催されている「アニメ化30周年記念企画 ちびまる子ちゃん展」に行ってきました。「ちびまる子ちゃん」は、一昨年に亡くなったさくらももこさんが、少女マンガ雑誌「りぼん」で1986年から連載していた、自身の少女時代をモデルに描いたマンガが原作で

す。この展覧会では、テレビアニメ化された1990年から現在までの、アニメーションの制作過程の資料やセル画、スケッチ画、絵コンテ、映像など約350点が、年代を大きく6つに区切って展示されています。

「おどるポンポコリン」「アララの呪文」などのテーマソングが聞こえる中、たくさんのカラフルなセル画を見ていると楽しくなってきます。セル画や設定画には、テレビの第何話で、どんなお話の場面か解説が付されています。解説にはアニメーションの手法や工夫などが書かれているものもありました。例えば、まる子の友だちの藤木君がショックを受ける場面は縦に長いセル画で、流れるように線が描かれた背景を下から上に動かしながら撮影していたり、サッカーゴールの場面では、背景の地面も動画にすることで、シュートされるボールに躍動感をもたせたりしていました。

テレビや映画用の脚本やプロット、キャラクターの設定画など、さくらももこ直筆の資料もたくさんあって、アニメーションに原作者がこんなに関わっているのだと、自作への深い思い入れを感じました。

テレビで放映が始まった頃にはすでに大人になっていて、毎週欠かさず見るということはありませんでしたが、ちびまる子ちゃんの世界は自分の子ども時代とも重なっています。さくらももこの観察眼に改めて天才的なものを感じました。(K)

アニメ化30周年記念企画 ちびまる子ちゃん展

http://kyoto.wjr-isetan.co.jp/museum/exhibition_2003.html

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 資料展示「世界の子どもの本展 - IBBY (国際児童図書評議会) がすすめる世界の児童書 国際アンデルセン賞と IBBY オナーリスト 2018 -」
「国際アンデルセン賞」受賞作家の本、および国際児童図書評議会 (IBBY) が61の国と地域から選んだ「IBBY オナーリスト」の本、50言語、約200冊の本を展示します。

会 期：2月22日(土)～3月8日(日) 午前9時～午後5時

会 場：大阪府立中央図書館 こども資料室、国際児童文学館

休館日：2月25日(火)、3月2日(月)

主 催：一般社団法人 日本国際児童図書評議会 (JBBY)

協 力：大阪府立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『明日をさがす旅』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.114 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メー

メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ
office@iiclo.or.jp にお送りください。
締切は3月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — |

例年より早い梅の便りに、花見で一献を頭に描きながら手近な梅林へ繰り出
してみました。ご同輩の方々ばかりと思いきや、若いファミリーの多さに少
しびっくり。様々な休日の過ごし方がある中で、季節感あふれる自然や植物
とのふれあいを求める思いは、世代を超えて共有されているとあらためて気
づきました。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお
願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp